

第69回病診連携委員会要録

日時 平成27年10月26日(月) 午後7時45分
場所 浪速区医師会 会議室
出席者 浪速区医師会 : 7名
南 医師会 : 1名
愛染橋病院 : 2名
NTT西日本大阪病院 : 1名
大手前病院 : 1名
大野記念病院 : 2名
四天王寺病院 : 2名
千本病院 : 1名
多根総合病院 : 1名
富永病院 : 2名
なにわ生野病院 : 1名
日生病院 : 2名
浪速区歯科医師会 : 1名
浪速区薬剤師会 : 2名
地域包括支援センター : 1名
居宅介護支援事業者連絡会 : 1名
浪速区医師会事務局 : 1名

今回は、歯科医師会、浪速区薬剤師会、日生病院、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者連絡会に参加いただいた。

議 題

1. 第68回病診連携委員会報告について(資料1)
前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。

2. 在宅連携と現在の取り組みについて(歯科医師会)

在宅歯科診療をより一層広めていくため、歯科医師会としても取り組んでいるところである。現状として要介護者の約9割には何らかの歯科治療が必要であるにもかかわらず、受診率がまだまだ低く(27%)各機関と連携が必要と考えている。地域医療介護総合確保基金における事業も進行しており、定期的な研修を開催していくことで多職種と連携を図っている。浪速区においても往診の歯科医が検索できるシステムがあるため有効に利用してもらいたい。

3. 在宅連携と現在の取り組みについて(薬剤師会)

厚労省の策定した『患者のための薬局ビジョン』において『門前』から『かかりつけ』そして『地域』への項目において『ICTを活用した服薬情報の一元的・継続的把握』(別紙)のような意義および普及のための方策が示されている。現在大阪府薬剤師会が行っている『大阪e-お薬手帳』は保存容量が大きいことや携帯性に優れていることなどが利点として挙げられているが、現状として手帳持参をしていただかないと、薬剤服薬管理指導料が低い算定になり(持参あり41点、持参なし、かつシールで発行 34点)、また、結局患者自身が電子媒体に入力しなくてはならず、なかなか普及していない。しかし今回のi-projectと連携することによって付加価値が加わることにより、有効利用が出来ていると考えられる。今後更なる普及を目指していきたい。この件に関し、病院医師からも患者に対して働きかけをしていただくとかかりつけ医も動くことが期待できるという意見も聞かれた。

4. 本会の在宅医療連携の現状について

在宅コーディネーター事業の進捗状況等を報告した。

5. ブルーカードの動向

ブルーカードの登録件数（合計 618 件、浪速区内の医師より 563 件、他地区の医師から 55 件、使用状況（のべ件数 全例で 498 件、浪速区 470 件、他地区で 28 件、10 月 1 日からのカード動向 27 件）。

その他、ブルーカードに病状が十分に書かれていないこともあり、病院側が受け取ったとしても理解が難しいのではないかと思われるケースが認められるとのこと。不備があれば事務長に連絡していただき、主治医に追記を促していくので、その旨周知願いたいとのこと。

6. その他

なし。

次回会議予定 平成 27 年 11 月 30 日（月）午後 7 時 45 分～